第３章　芸術祭

プログラム

琉球大学同窓会創立60周年記念芸術祭
プ　ロ　グ　ラ　ム

会長ご挨拶

琉球大学同窓会　会長　幸喜　徳子

本日はようこそご多忙の折、琉球大学同窓会創立60周年記念芸術祭へお越し下さり、誠に有難うございます。皆様には日頃より当会へ深いご理解を賜り心より感謝申し上げます。

さて、琉球大学同窓会は1954年、首里キャンパスにて第一期･第二期卒業生により創立され、2014年12月４日に創立60周年を迎えました。これも草創期から今日まで同窓会の発展に関わってこられた先輩方をはじめ多くの関係者のご尽力の賜物と深く敬意と謝意を表します。

今年は「過去から未来へのかけはし」をテーマに芸術祭をはじめ諸記念行事を次々と企画致しております。

本日の芸術祭は、国指定重要無形文化財『組踊』保持者をはじめ県内外でご活躍の同窓生およそ200人が出演し、西洋音楽、邦楽、琉球芸能等多くのジャンルを網羅した内容となっております。長年磨き上げられた各分野の至芸が舞台いっぱいに繰り広げられることでしょう。

出演者はどなたも快くボランティアでお引き受け下さり、夜間の合同練習やリハーサル等、貴重なお時間を割いて本公演に臨んで下さいました。出演者の皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

結びに、会場へお運びくださいました皆様、開催に向けご協力いただきました各企業の皆様、その他多くの皆様に心より御礼申し上げます。どうぞ本日は最後まで各分野の芸能をゆっくりとご鑑賞下さい。

日　時　　平成27年２月11日
場　所　　浦添市てだこ大ホール

琉球大学同窓会創立60周年記念芸術祭
「～過去から未来へのかけはし～」プログラム

第Ⅰ部　西洋音楽の部

１．クラリネット独奏
下　地　愛　華　　ピアノ伴奏　美　里　真　帆
♪モンティ作曲「チャールダーシュ」～酒場風音楽～
♪C.サンサーンス作曲「クラリネット・ソナタ」第１番　第１楽章　作品167

２．ソプラノ独唱
山入端　澄　代　　ピアノ伴奏　喜屋武　郁　子
♪R.レオンカヴァッロ作曲「マッティナータ」～朝の音楽～
♪G.ヴェルディ作曲　オペラ「運命の力」より　アリア“神よ平和を与えたまえ”
♪ビゼー作曲　オペラ「カルメン」より　アリア“セギディーリャ”

３．弦楽四重奏
崎　山　弥　生（第１ヴァイオリン）香　村　桃　代（第２ヴァイオリン）
国　吉　佐知子（ヴィオラ）　　仲　間　正　浩（チェロ）
♪A.ヴィヴァルディ作曲「四季」より“春”～第１楽章～
♪G.ホルスト作曲　組曲「惑星」より“ジュピター”
♪A.ボロディン作曲　オペラ「イーゴリー公」より“ダッタン人の踊り”
♪モーツアルト作曲「アイネクライネ・ナハト・ムジーク」より～第１楽章～

４．みんなで歌おう
富　原　守　哉（指揮）琉球大学音楽科アカデミックコーラス（合唱）
♪琉球大学逍遥歌　　♪琉球大学の歌　　♪芭蕉布

（休憩10分）

第Ⅱ部　邦楽の部

〔箏と尺八〕
・宮　城　道　雄　作曲　　「北海民謡調」

第一箏　山田多恵子、比嘉　尚美、徳元ひろみ、當銘　恵子、山田明美
第二箏　上原　清美、大浜はるか
十七弦　知念　真子
尺　八　新垣　淑行、浜田　良衛、喜瀬　乗了、岸本　恵好
〔詩　吟〕
１．吟　題　　「春日山に登る」　程博萬
　　合　吟　　比嘉　明美、有銘　初美、那覇　正子、松岡　和枝、宮城　和子、
　　儀間　つる、長嶺かつ子、伊波　恒子
２．吟　題　　「南郊の麦浪」　　程順則
　　合　吟　　武内　孝夫、玉城　邦彦、仲松　政治、野村　　力、比嘉　靖夫、
　　前泊　　猛、赤嶺　喜幸、石川　清勇

３．吟　題　「姑蘇省墓」　程順則
　　連　吟　照屋　　巌、具志　仙吉、比嘉　徳正

４．吟　題　「泉崎夜月」　徐保光
　　独　吟　長嶺かつ子（克風）

５．吟　題　「辞　世」　林　世　功
　　独　吟　上原　健一（岳南）

（休憩10分）

第Ⅲ部　琉球芸能の部

１．開幕斉唱　松竹梅　指導　前川　朝文
歌・三線　前川　朝文、大城　米雄、小浜光次郎、座波　朝正、國吉　清昴、仲本　貞夫、前村　治、中村　昌昭、篠原　行雄、島袋　英治、新崎　盛忠、諸見川和男、永山　盛実、知念　保、名嘉山通夫、伊禮　薫、渡慶次　淳、高江洲昌和、我那覇宗雄、親川　武重、島袋　捷呼、知花　清秀、喜瀬　慎仁、山内　秀吉、城間　盛久、仲村　春善、高江洲昌正、山城　暁、田港 朝弘、儀間　良和、宮城　欣也、大城　稔、宮原　弘和、新垣　浩、中村　一史、稲嶺　盛律、玉城　悟、大城　聖、喜納　昌盛、山内　昌重、宮城　晃、仲村　善信、蔵園　有生、池原三致子、池原　朝雄、玉城　徳男、浦崎　直明、島袋　勝、伊佐　英吉、津嘉山稔子、真喜志康富、上間　久武、鳩間　昇、高嶺　方祐、平田　永哲、濱元　盛爾、照喜名　進、島袋　朝夫、花城　清昌、名嘉　安信、大城　秀矩、仲間ひろみ、新井　孝雄、大城　和宏、金城　佳隆、国仲　貴光、川崎　仙子
箏　上地　尚子、上地　七重、伊野波ナエ、徳本　米子、照屋　孝代、富山　初子、徳本　紀子、山城真理子、新垣　照子、赤嶺スエ子、上門　敦子、石垣久美子
笛　平良　浩章
胡　弓　渡慶次　淳
太　鼓　比嘉　輝

２．長者の大主　監修　渡久地美代子、島袋　君子
　　指導　比嘉　美好、高嶺　久枝、真境名律弘、又吉　静枝、金城千壽子
踊り
・かぎやで風　真境名律弘、渡久地美代子
・たのむぞう　真境名律弘、親泊　ナミ、入嵩西道子、
・早作田　渡久地美代子、比嘉　美好、豊見本美重子
・金武節　宮城　伸子、宇地原幸子、高嶺美和子、宮城　史佳、
・前の浜　山崎　啓貴、名嘉山祐一
・四季口説　又吉　聖子、又吉　桃子、辻　由加里、神里　那美
・稲しり　金城千壽子、島袋　君子、高嶺　久枝、本村みどり、仲村　妙子、大城みゆき、永山玲緒奈
歌・三線　前川　朝文、大城　米雄、小浜光次郎、真榮喜清次、平良　昭隆、平良　春吉、新里　光雄、儀間　良和、稲嶺　盛律、喜納　昌盛、池原　朝雄
箏　銘苅　君子、長浜まさ子、平良マサエ、石嶺　達子

笛　　真地　利尚
胡弓　　渡慶次　淳
太　鼓　　新里　尚子

３．舞踊　四つ竹　指導　大城　ナミ
踊り　　宇地原幸子、高嶺美和子、平良千代子、山城　美代、高山せい子、亀川　玲奈、當間　弘子、上地亜矢子、井上　　泉、嘉陽　沙織
歌・三線　　平田　永哲、濱元　盛爾、照喜名　進、島袋　朝夫、花城　清昌、名嘉　安信、大城　秀矩、新井　孝雄、大城　和宏、金城　佳隆、新城　卓也、国仲　貴光、川崎　仙子
箏　　金城貴美子、名嘉　ハツ
笛　　名嘉山道夫
胡弓　　渡慶次　淳
太鼓　　下地美南子

４．組踊「萬歳敵討」　　指導　眞境名正憲
〔立ち方〕
高平良御鎖　眞境名正憲
謝名の子　名嘉山佑一
慶運　　山崎　啓貴
妻（真鍋樽）伊野波盛人
娘　　稲福　清彦
列女一・二　柳岡　範子、伊藤　美砂
供　　北迫　善大
道行人　　比嘉　良雄
きょうちゃこ持竹内　俊太
歌・三線　　前川　朝文、島袋　英治、喜瀬　慎仁、大城　米雄、山城　　暁
箏　　上地　尚子
笛　　中村　昌成
胡弓　　伊禮　　薫
太鼓　　比嘉　　聰

５．舞踊　まみどーま　指導　渡久地美代子
踊り手　　渡久地美代子、金城千壽子、島袋　君子、比嘉　美好、高嶺　久枝、親泊　ナミ、本村みどり、仲村　妙子、入嵩西道子、宮城　伸子、宇地原幸子、豊見本美重子、高嶺美和子、大城みゆき、永山玲緒奈、山城　美代、又吉　聖子、又吉　桃子、辻　由加里、當間　弘子、高山せい子、亀川　玲奈、宮城　史佳、神里　那美、上地亜矢子、井上　　泉、嘉陽　沙織
歌・三線　　城間　盛久、玉城　　悟、大城　　聖、室井恒慈郎、比嘉　啓和、島袋　　薫
箏　　新崎　毎子、嶺井　幸枝
笛　　名嘉山道夫
胡弓　　伊禮　　薫
太鼓　　新里　尚子

出演協力団体

○　西洋音楽の部
琉球大学音楽科同窓会

○　邦楽の部
生田流箏曲
都山流尺八
日本詩吟学院

○　琉球芸能
（地謡）
琉球古典音楽野村流伝統音楽協会
琉球古典音楽野村流音楽協会
琉球古典音楽野村流保存会
琉球古典音楽安冨祖流
琉球箏曲興陽会
琉球箏曲保存会
光史流太鼓保存会
横笛・笹の会
沖縄横笛協会

（組踊）
一般社団法人伝統組踊保存会
真境名本流眞薫会
真境名本流
太圭流華良雄の会

（琉球舞踊）
宮城流美代乃会
玉城流千壽の会
島袋流千尋会
玉城流扇寿妙の会
琉球舞踊かなの会
親泊本流親扇会
玉城流翔節会
真踊琉
柳清本流柳清舞鶴の会
柳清本流和華の会
柳清本流和華良舞の会
琉舞輝和乃会
玉城流いずみ会
島袋本流紫扇の会
真境名本流

琉球大学同窓会創立60周年記念事業実行委員会芸術部会

芸術部会部会長　照屋　寛八
同　副部会長　上地　和夫
同　部会員

（西洋音楽部門）
照屋由紀子
名渡山愛文
崎山　用豊
富原　守哉
与儀　幸英
新城　哲夫
下地　義雄

（邦楽部門）
山田多恵子
岸本　恵好
上原　健一
武内　孝夫
那覇　正子
伊波　恒子

（琉球芸能部門）
眞境名正憲
前川　朝文
眞境名律弘
渡久地美代子
島袋　君子
高嶺　久枝
比嘉　美好
金城千壽子
入嵩西道子
親泊　ナミ
中村　昌成
長浜まさ子
上地　七重
上地　尚子
濱元　盛爾
島袋　英治
喜瀬　慎仁
知花　清秀

同窓会事務局長
山里　将順

概要及び記録写真

過去から未来へのかけはし」をテーマに創立60周年記念事業の第一弾「芸術祭」が２月11日浦添市てだこ大ホールで開催されました。200名余の同窓生が出演し、西洋音楽、琉球舞踊、邦楽の３部門でバラエティに富んだ内容となりました。西洋音楽では、クラリネット独奏、ソプラノ独唱、弦楽四重奏、邦楽では、箏と尺八、詩吟が披露され、琉球芸能は、国指定重要無形文化財「組踊」保持者をはじめ総勢80人余による斉唱で幕開け、組踊や琉球舞踊などが披露されました。約３時間に及ぶ演目で800名余の観客は各界の至芸を堪能し大盛況でした。

弦楽四重奏（崎山弥生、香村桃代、国吉佐知子、仲間正浩）

ソプラノ独唱：山入端澄代（ピアノ伴奏：喜屋武郁子）

クラリネット独奏：下地愛華（ピアノ伴奏：美里真帆）

司会：大城明美

幸喜徳子会長挨拶

みんなで歌おう（富原守哉指揮　琉大音楽科アカデミックコーラス）

琉球大学同窓会
創立60周年記念芸術祭
～過去から未来へのかけはし～
西洋音楽・邦楽・琉球芸能の夕べ

邦楽：箏と尺八

琉球大学同窓会
創立60周年記念芸術祭
～過去から未来へのかけはし～
西洋音楽・邦楽・琉球芸能の夕べ

詩吟

詩吟

琉球芸能：開幕斉唱

長者の大主「口上」

長者の大主「かぎやで風」

長者の大主「たのむぞう」

長者の大主「早作田」

長者の大主「金武節」

長者の大主「前の浜」

長者の大主「四季口説」

長者の大主「稲しり」

長者の大主「四つ竹」

組踊「萬歳敵討」

出演者所感

創立60周年記念芸術祭に携わって

芸術部会部会長
照　屋　寛　八
17期　教育学部音楽科

平成27年２月11日､浦添市てだこ大ホールにて「琉球大学同窓会創立60周年記念芸術祭」を開催、西洋音楽の部、邦楽の部、琉球芸能の部三部構成で延べ330人余が出演し、800名余の観客から大喝采をいただきました。

実行委員会の立ち上げと経緯

平成26年２月25日の創立60周年記念事業に関する本部の第１回実行委員会を受け、第１回芸術部会を平成26年３月16日（日）国立劇場おきなわにて開催、運営委員と各部門（琉球芸能･西洋音楽･邦楽）の実演者代表の合同会議を行いました。

1　琉球大学同窓会創立60周年記念関連行事の説明

芸術部会部会長として芸術祭についての説明報告と芸術祭への協力願いを行い、芸術祭日時の決定と場所の選択、実演者への呼びかけ、各部門の責任者、流派・会派を乗り越え組織すること、練習会場、集客、入場料等々が話し合われました。

集まっていただいた皆さんは10年前の創立50周年記念行事の経験で成功の喜びとそれこそ難題・課題のことも御見通しでした。にも関わらず、皆さんの心意気肝高く「今年は還暦の60歳でしょ！前回よりも盛大に祝いましょう。会場は浦添市のてだこ大ホールで」との皆さんの情熱に圧倒されました。休憩時間に「国指定・県指定保持者の原動力は何ですか」と質問すると、間髪入れず「琉大のお陰ですよ！放課後は部室に一直線ここに居る皆さんは皆そうです、祝い事で苦労するのは分かっていても琉大母校への恩返し、琉大のアピールにもなるでしょう」と。しばらく首里キャンパスの思い出に花が咲き、誰もが青春映画の主人公の誇らしげな顔で輝いていました。いつの間にか小生も皆さんに背中を押され覚悟を決めるスイッチが入りました。

副部会長兼舞台総監督を国立劇場おきなわ専門委員上地和夫氏に、実演者としての相談役に50周年の実績から前川朝文氏・喜瀬慎仁氏・島袋君子氏・富原守哉氏・上原健一氏にお願いしました。

2　各部門ごとの分科会

責任者、演目、練習計画、練習場所、連絡網等について議論しました。まずは、「てだこ大ホール」を押さえることが先決でしたが、浦添市教育委員会の特別な協力により先行予約ができました。出演者は全て手弁当での協力で、チケット販売も自らのノルマで協力購入してもらい、企業の皆さんには厳しい経済状態の中、大口のご協力をいただきました。この場をお借りして深く感謝いたします。また、お世話になった練習会場、国立劇場おきなわ、琉球大学、真和志高校、繁多川自治公民館、各お稽古・研究所に感謝いたします。

3　いよいよ本番

「琉球芸能の部」

国指定「組踊」保持者、県指定「伝統舞踊」保持者、県指定「伝統音楽」保持者、更に師範・教師資格を持つ実演家一般出演者が流派･会派を超えて一堂に会し、各部門で猛稽古が始まりました。名前を挙げれば限りがない程多くの重鎮の皆様にお世話になりました。

本番では開幕斉唱「松竹梅」総勢82名で大斉唱、長者の大主、舞踊　四つ竹、組踊「萬歳敵討」、まみどーま等、おめでたい祝儀曲、格調高い組踊・舞踊、農作業風景をコミカルに表現した芸や技に観客から万雷の拍手が湧きました。

また、「長者の大主」真境名律弘氏の口上が話題になりました。観客からの声に応え掲載いたします。雰囲気を自らイメージして厳かに吟じてみては如何でしょうか。

「ああ尊とぅ
ご慈悲ある御代(みゆ)のお恵みにおうて
波ぬ声(くぃん)立たぬ（ん）風枝(かじゆだ)も鳴らさぬ（ん）
今日のよかる日　まさる日に
琉球大学同窓会創立60周年記念公演
くぬ　てだこホールうて
開催することになやびたん。

琉球舞踊から組踊まで芸能(じーぬー)の数々(かじかじ)
御衆様んかい御見かきてぃ
かりゆしぬお祝いしゃびら
今日や心晴(くくるは)れ（り）晴れと能羽(ぬうふぁ)しちあしでぃ
この会のご安泰、いや増の栄
御願上ぎだやびる
ああたうと、ああたうと」

「邦楽の部」

社会的にも広く活動なされている邦楽の皆様が今回同窓会の記念行事に初めて参加協力していただいたことは会員一同大きな喜びであります。山田多恵子氏、上原健一氏を中心にお世話になりました。邦楽が加わり内容が深く、華やかなプログラムになりました。

箏と尺八のコラボレーション「北海民謡調」は尺八と箏で舞踏的なリズムのソーラン節と庶民的な哀愁の追分節を自由幻想的に奏で観客をうっとりさせました。

「詩吟」今回は琉球王国時代の琉球漢詩を中心に美しい自然、豊かな人情、国の行く末を憂えた共感を覚える詩を吟じていただきました。水を打ったような緊張したホールで見事な出来栄えに、

おもわず観客席から感嘆の声が上がりました。

「西洋音楽の部」

出演者については、テーマの「かけはし」を意識し、今回は西原キャンパスの音楽科を卒業した同窓生にお願いすることにしました。人選を恩師の琉球大学名誉教授糸数武博氏に、現役の学生との関わりでは崎山弥生琉球大学音楽科准教授の多大な協力でスタートしました。クラリネット独奏・ソプラノ独唱・弦楽四重奏を素晴らしい音楽と圧巻な技・感性で観客を堪能させました。後輩へのモデルとなり、未来への架け橋に感謝いたします。

幸喜会長は適時に激励で足を運ばれ、大胆細心に目と心を配り点検していただきました。その最たる場面が西洋音楽部門プログラム最後の「みんなで歌おう」の場面です。

「最後は観客と一緒に歌おうよ！音楽科同窓生も網羅して」と急な話で戸惑いましたが、提案されたからには最善の努力を試みました。首里キャンパス１期生から西原キャンパス現役学生で“大合唱”をと、葉書作戦で音楽科同窓生に呼びかけました。琉大音楽科教官・学生の協力でアカデミック合唱団を俄かに結成、指揮を７期生の富原守哉氏、伴奏をピアノ弦楽四重奏で総勢80名、さらに大城肇学長・幸喜徳子会長はじめ多数の評議員も舞台に花を添え観客と一体となって琉球大学の歌、逍遥歌、芭蕉布で大合唱。会場には多くの同窓生で賑わい記憶に残る１ページとなり万雷の拍手をいただきました。

4　お礼

総合司会フリーアナウンサーの大城明美氏には、アナウンス資料を何度も練り直してスムーズな進行をしていただき、舞台と観客一体となる演出でお客様から大好評でした。

縁の下の力持ち　チケットもぎり、ドアーマン、控室での接待、駐車場、最後の片づけ、ゴミ出しまで、多くのボランティアのお陰で豪華な芸術祭になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。感無量です。

5　岸本一夫氏（美術工芸科５期生）に感謝

50周年に引き続きボランティアで創立60周年記念行事のポスター等のデザイン作成を快諾なされた岸本一夫氏に感謝申し上げます。

「過去から未来へのかけはし」をテーマにしたデザインは、手を繋ぐ6人で、同窓会の「人の繋がりと60周年」をイメージするとともに、明るい太陽を前にして「未来に発展するイメージ」。右上には琉球大学のマークを大きく０に見立て、左に６を添えることで視覚のトリックの60の数字が直感的に見えるようにしており、琉球大学と同窓会が車の両輪のごとく発展する様子が込められています。最高の作品ありがとうございました。

創立60周年記念芸術祭に参加して

富　原　守　哉
7期　教育学部音楽科

これまでは同窓会といえばごく一部のお偉い方々の関係する遠い存在のようで、下々の我々が関わるなど先ず考えもしなかった。しかし、先の50周年記念の際、音楽科の同期生から声をかけられたのがそもそもの縁で、その時はまさかステージでピアノを弾くハメになろうとは夢にも思わなかったが、貴重な経験をすることになったのである。指名されたら断りきれない性分がこんなところで顔を出すから困ったものだ。

60周年の今回もやはり音楽科同窓会の会長でもあり、琉大同窓会の副会長の要職にある照屋寛八氏からの声かけである。日頃からご苦労されている人であるだけに断るわけにはいかない。いつものような記念事業のことであり、ましてや昔のように出しゃばる場面もあるまいから気楽な気持ちで出席することとした。

今回も舞台発表をすることが話し合われ、幸いにも琉大の現職で多くの教え子を抱える糸数武博氏の存在があり、安心して一任することになった。何事もそうであろうが、特に音楽の場合はレベルや演奏の質の良し悪しがもろに出るので若い人達のステージと云えどもやはり気になる。でも60年も経た琉大の後輩達である、そこは多士済々心配はいらない。案の定、一応の演奏者や演目が出揃い、後は当日のステージが待ち遠しくもあったのである。

そのようなことから万事後輩頼みで少々無責任な心地良さもあった。だから、運営委員会の話し合いも流れにまかせた部分もあり、事実いよいよ当日の仕事分担の確認が行われていたのに、小生は遥か７月の記念式典のことと勘違いして照屋氏から一喝される有様であった。

さて、何をするにも一旦自分自身が関わるとなると真面目に心配し出す。特に、音に関わる仕事は殊の外こだわる。でも、この年になっても出番を楽しむ面もある変な性格でもあるから厄介である。こだわると云えば、大勢の中で演奏者を前にして指揮を執るとなるとこだわり無しには成し得ない。どのような場面でも一応演奏を任されたら指揮者が演奏の出来不出来の全責任を負うのだから。

出番のフィナーレで全体で歌うことにはなったが、さて伴奏メンバーはどうなっているのかや指揮者のスコアはあるのかといろいろ心配しながらだったが、しかし、いざステージに上がったら俄然指揮者としてのプロ根性のような妙な自尊心が全身に漲ってくるから不思議である。いやそれどころかむしろ会場全体を巻き込んで高揚する感覚を楽しんでさえいた。

音が会場いっぱいに響き渡る様子には会長の幸喜徳子氏もお喜びだったし、実に充実した一時だったと思う。

創立60周年記念芸術祭に参加して

邦楽出演者
新　垣　淑　行
12期　文理学部化学科

琉球大学同窓会創立60周年誠におめでとうございます。

私は、記念事業の一環として開催された芸術祭において、邦楽部門の尺八奏者の一人として出演させて頂きました。大勢の皆様を前にしたステージで、ライトを浴びての演奏は、尺八の未熟な私にとっては緊張の連続でした。幸い他の方々はベテランの方ばかりでしたので、耳はベテランの皆さんの音に集中し、目は必死に楽譜を追い、指使いに気をつけながら冷や汗三斗の思いで演奏しました。終わって温かい大きな拍手を頂いたとき、ホッとすると同時に未熟ながらこのような記念すべき行事に出演できて、私は本当に「ラッキーなオールドボーイ」だと思いました。

これといった趣味がなく、音楽なんて無縁だった私ですが、ある時宮城道雄作曲の「春の海」の箏と尺八の音色に惹かれ、尺八の先生の門をたたきました。何とか音が出るようになった2009年、「那覇市文化協会総合文化祭」邦楽部会の発表会が初舞台でした。

終了後の懇親会では、尺八の先生方やお箏の先生方はじめ出演した方々と、豊富な話題で膝を交えて和気藹々と語りあうことができ、元気とやる気をいっぱい頂きました。その後も毎回出演し、懇親会で多くのことを学んで元気を頂いています。尺八をやって本当によかったと思います。同窓生の皆様、尺八にチャレンジしてみませんか？

創立60周年記念芸術祭に参加して

邦楽出演者
山　田　多恵子
27期　法文学部文学科（英文学専攻）

1975年、復帰間も無い時代に琉球大学へ入学した私は、大勢の学生や先生方に囲まれた賑やかなキャンパスで青春を謳歌していたように思います。

箏曲クラブに入部して初めて日本箏に接し、それまでピアノや吹奏楽に親しんでいましたが、全く別の所へ入ってしまったことに驚きました。西洋音楽のようにはっきりとした音程・リズムではない微妙な間と音にまどろこしさを感じながらも、箏を弾き続けるうちにその不思議なおもしろさに夢中になったものです。卒業後も生田流箏曲の勉強を続け、東京で３年間の修業を積み、現在まで細々とではありますが関わりながら生活してきています。

今回、琉大同窓会創立60周年記念芸術祭への参加のお話が舞い込み、同窓会の存在さえ知らずにいました私共が演奏を引き受けてよいものかと躊躇致しましたが、琉球芸能の島袋君子さんからの「邦楽演奏を是非」とのお言葉に勇気を頂き、箏８人・尺八４人のメンバーで実現する運びとなりました。卒業以来お箏を弾いたこともない方々も、練習に練習を重ね、平成27年２月11日浦添市てだこ大ホールにて『北海民謡調』を奏でることができました。厳しい状況の中、決して満足ゆく演奏ではありませんでしたが、若かりし頃の思い出が甦った貴重な時を過ごさせて頂きました。ありがとうございました。

創立60周年記念芸術祭・琉球芸能部門に参加して

琉球古典音楽野村流保存会師範
喜　瀬　慎　仁
13期　文理学部国語国文学科

平成27年２月11日、浦添市てだこ大ホールにて「過去から未来へのかけはし」と題して、琉球大学同窓会創立60周年記念芸術祭が行われた。プログラムは、第１部 西洋音楽の部、第２部 邦楽の部、第３部 琉球芸能の部であった。いずれも、還暦の祝宴にふさわしい豪華な公演であった。

琉球芸能部門は、開幕演奏の古典音楽斉唱に引き続き、組踊、琉球舞踊を披露し800名余の観客を喜ばせた。私は、開幕演奏と組踊「萬歳敵討」に出演したので、それを中心に報告し、残りの演目は、観客の一人として簡単な感想を述べたい。

さて、開幕演奏の「松竹梅」は、歌三線67名、箏12名、笛、胡弓、太鼓各１名、総勢82名の大斉唱であった。この歌は、松の歌詞「二葉から出でて幾年が経たら巌を抱き松のもたえ清らさ」のように、二葉の若葉から出た琉球大学が、60年を迎え今では巌を抱く程の大木になったものだとの喜びの歌である。更に、梅でさえも降る雪に打たれ、長年耐え忍んだ後に見事な花を咲かすのだ。世の中も同じだとの歌意も、風雪に耐えて幾多の困難を乗り越えて来た琉球大学を象徴するような歌となった。出演者は、首里のキャンパス時代の70代80代の長老から新キャンパスで育った中年同窓生まで様々であった。しかし、出演者のどの顔も歩んできた我が人生を誇るが如く堂々とした歌となった。私も歌いながら胸に込み上げるものがあった。それは、琉球大学の郷土芸能クラブで出会った琉球古典音楽が、その後の私の人生を支えてくれたからである。

続いて、琉球芸能部門の４番目は、組踊「萬歳敵討」の後半、仇討の場面であった。真境名正憲氏演じる髙平良御鎖と二童の戦いの場面は、歌三線や太鼓の音曲効果を伴い観客の注目を浴びた。出演者は真境名氏を中心に、立ち方、地方ともに伝統組踊保存会のメンバーが中心であった。国指定の重要無形文化財となった組踊は、今や、ユネスコの世界文化遺産に登録され世界の宝物になった。琉球大学同窓生の中から、沢山の国指定の保持者が輩出していることは大変嬉しい限りである。私も歌三線の地謡として出演したが母校の意義ある公演に参加出来て感無量であった。また、長者の大主は、渡久地美代子氏、島袋君子氏監修で総勢43名の出演であった。老人老女を中心に、子や孫らを引き連れ、長寿、子孫繁栄、五穀豊穣の楽しい祝儀舞踊となった。舞踊　四つ竹は、大城ナミ氏の指導で総勢28名の出演であった。紅型衣装に花笠は、正に絢爛豪華で首里王朝時代を彷彿させる踊りとなった。

最後に、舞踊マミドーマも圧巻であった。渡久地美代子氏の指導で総勢38名の一糸乱れぬ演技は、まるで壮大な絵巻物を見る思いであった。城間盛久氏を中心とした地方陣も、次々とアップテンポの音楽をかき鳴らし踊り手の演技を舞台一杯に引き出し、観客の手拍子の中でフィナーレを迎えた。

「創立60周年記念芸術祭に参加して」―洋楽部門

琉球大学名誉教授
糸　数　武　博
19期　教育学部音楽科

創立記念の芸術祭が節目々々にとり行われ、昨年（2015年）の創立60周年記念芸術祭は、その質の高さと幅広い人材の豊かさに、まず目を奪われました。本学同窓生は沖縄県内の各分野の多岐にわたり多くが輩出され、長年にわたり多大な貢献を成してきたことが大きな誇りであることは論を待たないところであります。我が芸術分野にありましても、人間国宝指定を有する方々を筆頭に、多彩な顔ぶれを誇ります「琉球芸能」や「邦楽」分野にあって、当日の舞台では圧巻の技を披露して頂いたことが、現在でも記憶に新しく、心打つものを強く感じたものでした。

一方で、クラシック音楽を主体にした「洋楽部門」は、教育学部音楽科を中心とした卒業生で編成された演奏でありました。もとより当学科は教員養成が主でありながら、加えてそれぞれの分野（器楽、声楽等）に特化した演奏法習得の精進の結果、優れた演奏家たちが生まれ育ってきたと言えましょう。当日の演奏者の多くが県内の公立学校や、琉球大学等で教鞭を執っている教員であります。激務である教員生活の中、演奏レベルを維持してくのは想像の外、たやすいことではないことと推察されるものですが、当日出演の方々の不断の努力と音楽への情熱には深く敬意を表するものです。

第１部の「西洋音楽の部」で初めに演奏した下地愛華氏は高校勤務で、柔和な音と高い技術でクラリネット音楽の醍醐味を味わせてくれました。ピアノ伴奏の美里真帆氏は中学校教諭で、県内では吹奏楽指導で多くの実績を挙げております。“ソプラノ独唱”の山入端澄代氏は高校教諭の傍ら、オペラ出演も多くあり、実力派としての声を存分に聴かせてくれました。伴奏の喜屋武郁子氏は県内に於ける演奏活動を精力的に続けております。“弦楽四重奏”は琉球大学准教授の崎山弥生氏を初め、香村桃代氏、国吉佐知子氏、仲間正浩氏の４氏はヴィヴァルディ作曲の「四季」を初め、弦楽器の魅力を遺憾なく発揮した名曲の数々を演奏し、多くの喝采を浴びた素晴らしい舞台を作り上げて頂きました。この場をお借りして皆様に深く感謝申し上げます。

次の芸術祭に向け、新たな希望を抱かせてくれる意義ある舞台でありました。